慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1964
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.57, No.9 (1964. 9)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19640901-0081

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

暑い夏も漸く終りに近づいた。この欄を借りて近頃考えていることの一端を述べてみたい。経験科学としての経済学が確立されて以来、多かれ少なかれ統計資料は経済分析に常に使用されてきたが、数量的な側面における経済の法則性を見出す目的で、数量的分析・統計的方法が開拓され始めたのはせいぜい二〇世紀に入ってからのことである。この分野における最近の発達は非常に目覚ましく、かつ華々しい。それは主として統計技術の発展と電子計算組織の開発に負うと云えよう。しかし反面、問題提起が現象の数量的側面にのみ集中し、かつそれが大規模に適用される結果、分析の検証手段が経済理論によって要請される条件よりは、統計学的・機械論的検定方法に依存するという傾向が強くなってきたように思える。行き過ぎた統計的偏重は、経済理論の統計的方法に対する譲歩であり、経済理論の後退とも考えられ、誤った結論を導く可能性も生まれる。もし複雑な諸要因の混淆した現象に関するデータをそのまま観察するならば、その変動は幾通りもの仮説によって解釈されうる。

観察者は屢々自己に都合のよい解釈を下し、数量的分析者は複雑な数学式を考案しそれを機械的に適用して、その検証手段を安易に統計的方法だけに委ねてしまう。適確な実験は、第一に採択された仮説の検証に最も良く適合した実験方法をとらねばならぬ。それにはその仮説に基づいて綿密に計画されコントロールされたデータが使用されねばならない。無批判なデータの使い方は、多くの誤った結論を導出する。第二に仮説自体はできるだけ簡潔な表現をとる必要がある。よくコントロールされた実験においては、経験法則はより簡潔な形で認識されるからである。以上最近の実証的研究によく散見する風潮について感想を述べ編集後記にかえる。

（尾崎）

昭和三十九年九月一日発行

© 三田学会雑誌 第五十七巻 第九号

定価 一二〇円（送料一二円）

編集兼発行人 東京都港区芝三田二丁目二番地 慶應義塾経済学会 代表者 遊部久蔵 電話三田（453）二一一一 振替口座番号 東京四四〇五六

印刷者 東京都港区芝三田豊岡町八番地 図書印刷株式会社 安倍七郎

半ヵ年予約購読料（送料共） 七二〇円
一ヵ年 〃 〃 一四四〇円

御希望の方は左記へ購読料を添え御申込み下さい。

発売所 東京都高輪局区内三田綱町一番地 慶應通信 振替口座番号 東京一五五四九七